2016年熊本地震時の透析の状況

久木山厚子

平成28年11月10日/福岡県「第59回福岡市透析集談会」
平成28年11月27日/愛知県「平成28年度愛知県透析医会研修会」

1　地震時の状況

2016年4月14日および4月16日に熊本県熊本地方を震源地とする最大震度7の熊本地震が発生した．4月14日午後9時26分の前震後の県内の透析施設の被災状況は93施設中7施設，257名の患者が透析不可となった．4月16日の本震直後には県内93施設中，熊本市およびその近郊の27の施設が主に水要因（断水，水質汚濁）のため，透析不能となった．

2　地震後の経過

4月16日午前7時半過ぎには，福岡県透析医会会長の百武宏幸先生より，「県外での透析が必要であれば，福岡県が引き受けます」と連絡をいただいた．午前8時半頃，熊本県臨床工学技士会の災害担当理事が熊本県の透析施設に一斉メールし，日本透析医会災害時情報伝達ネットワークに施設状況を16日の午前中に書き込みするよう依頼した．その後，熊本市およびその近郊は断水で透析できない施設が多いが，県北，県南，人吉球磨地域，天草地域の施設は被災しておらず，県内で透析可能な施設に透析不可の施設が依頼透析をして，かなり透析できていることが判明してきた．

各施設の透析時間は2〜4時間であった．同日午前に熊本県医療政策課より県でも積極的に動くので，給水が必要な施設は直接電話するように連絡があった．また同日午後に厚労省健康局がん・疾病対策課より電話があり，「県内すべての施設に状況確認の電話する」と言われ，その結果を県の医療政策課と本会と熊本県臨床工学技士会事務局にメールされた．4月17日，「給水船が午前8時に熊本港に到着するので，透析施設に優先的に給水する」という連絡があり，自衛隊で給水してもらえることになった．しかし，1施設当たりの必要な水の量が多いこと，道路が混んでいることもあり給水は思うように進まなかった．

4月19日には熊本市内のかなりの施設で水の問題は解決した．4月25日より大規模損壊があった数施設を除く，ほぼすべての施設で通常の透析が可能となった．

3　まとめ

熊本地震で，3日以上透析ができなかった患者は皆無であった．この理由として，依頼透析がスムーズにいったこと，ほとんどの施設で地震対策をしていたこと，地震直後より日本透析医会を通じて近隣県の透析医会よりバックアップがあったこと，地震時，施設透析をしていなかったこと，津波が無かったこと，通信が比較的保たれていたことなどがあげられる．

今回の問題点としてネットワークへの書き込みが2/3しかできなかった．給水車で水を持ってきても施設にポンプがないため，給水に時間がかかった施設があった．物資が来ても仕分けして配る人がいなかった．入院患者の給食の食材の備蓄が減り，食材確保が困難な施設があった．スタッフ自身も被災しながら，また学校が長期に休校となり，子供を職場に連れてきて働いていたスタッフが多く疲労が溜まっていた．患者移送手段が施設でバラバラであったなどがあげられ，今後の課題と思われる．

宇土中央クリニック/熊本県透析施設協議会